

生徒代表の言葉

木々が色づき、より秋らしさを感じる時期となりました。文林中学校は今年、開校六十周年を迎えました。六十年という長い年月を経て、今の文林中学校があると考えると、先生、主事さん方をはじめ、先輩方や地域の方々、そして保護者の皆様の存在は偉大なものであると感じます。

文林中学校は、区内で最も生徒数の少ない学校です。少ないということ、マイナスに捉えてしまう人もいるかもしれませんが、文林中学校は、少ないことを最大限に生かした学校であると私は思います。

その理由の一番に挙げられるのは、活躍することのできる場が多いということです。実際、私たちのクラスは十二人と少数ですが、そのほとんどが委員会に入っています。私自身、小学生の時は積極的に発言することは少なかったですが、文林中に入り、人前に立つことが多くなったことで、積極性が増したように思います。また、文林中ではプレゼンテーションにも力を入れています。入学当初はプレゼンテーションのスライドがうまく作れませんでした。回を重ねるごとに、だんだんと自分なりに納得のいくプレゼンテーションができるようになりました。これは、社会に出てからも役立つことで、中学生のうちからプレゼンの経験ができたことはとても嬉しく思っています。

次に、全校生徒、先生方との距離の近さです。運動会では他の学年と合同で行う種目が多く、学年の壁を越えて互いに励まし合いながら一つの目標に向かって突き進んでいます。行事を通して、自然と全校生徒のほとんどの人の顔と名前が一致する、これも文林中ならではだと思います。そして授業では、先生方が生徒一人一人に声をかけてくださり、学習内容の理解を深めることができました。

このような環境があるのは、先生や主事さん、地域の方々、そして保護者の皆様のご支援のおかげです。深く感謝いたします。先輩方が受け継いできてくださった伝統の中で、忘れてはならないのが「文林開拓」と「たんぽぽ精神」です。入学した時はつぼみの状態ですが、三年間でくじけそうになってもあきらめない「たんぽぽ精神」を身につけます。そして、卒業後にはたんぽぽを咲かせ、それぞれの道へと進んでいきます。

六十年間、この伝統は引き継がれ、今に至ります。私たちはこの伝統を絶やすことなく、次の世代へと引き継いでいくという大きな役割があります。そして、さらに学校をより良くしていくことが、今の私たちにできることではないかと思っています。

最後に、この伝統が七十年、八十年そして百年と続くように、一人一人が文林開拓とタンポポ精神を受け継ぎ、何事にも日々努力していくことをここに誓います。

令和二年十一月七日

生徒代表 ○○○○